

奈良県観光旅行 日帰り圏住民の観光意識調査結果

奈良県は歴史文化遺産の宝庫と言われ、年間 3,500 万人の観光客が訪れる全国有数の観光地である。しかし、その世評とは裏腹に県内の宿泊施設数及び客室数は全国最低レベルの水準にあり、観光客誘引の大きな推進力となる魅力的な料理や土産物、もてなしなどについても近年改善が図られているものの決定打には成り得ていない。一方、県内を見渡せば地場産業の苦況が続いており、観光産業への期待は日増しに高まりつつある。

当センターでは、今後の奈良県観光の振興を図るための基礎データを得るため、奈良県への観光旅行日帰り圏住民に観光意識アンケート調査を行った。

1. 調査の概要

(1) 調査実施時期

平成 20 年 3 月 7 日（金）～11 日（火）

(2) 調査地域

奈良県を除く近畿地区 2 府 3 県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県）及び三重県

(3) 調査対象

Yahoo!リサーチモニター登録者のうち、上記調査対象地域（奈良県への観光旅行日帰り圏）に住む 20 歳以上の男女個人

(4) 調査方法

Web 調査（Yahoo!リサーチ）

- ・回収予定サンプル数：600 サンプル程度
- ・調査地域（上記（2）の 2 府 4 県）のモニター登録者あてにアンケートを依頼し、ネットを通じて回収。
- ・依頼配信数は各府県人口構成比に準拠。

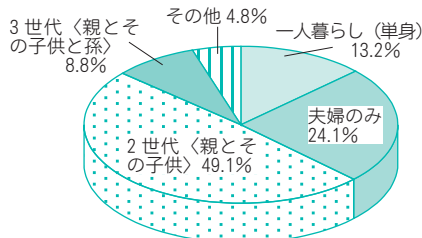
- ・年齢構成は 20～49 歳と 50 歳以上がそれぞれ半数程度になるように調整

・未既婚：不問

(5) 回答者の概要

- ①依頼者数 1,630 人
- ②有効回答数 690 サンプル
(有効回答率 42.3%)
- ③男女別 男性 336 人
女性 354 人

④家族構成



⑤地域別年代別 下表の通り

■回収サンプル府県別年代別内訳

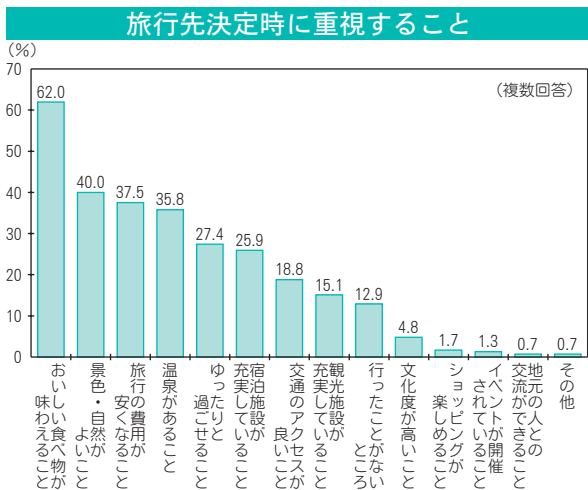
(単位 上段：人、下段：%)

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	全 体
三 重	4 8.0	5 10.0	7 14.0	16 32.0	14 28.0	4 8.0	50 100.0
滋 賀	3 7.7	6 15.4	8 20.5	9 23.1	10 25.6	3 7.7	39 100.0
京 都	11 12.0	15 16.3	16 17.4	25 27.2	18 19.6	7 7.6	92 100.0
大 阪	44 14.8	59 19.9	38 12.8	70 23.6	65 21.9	21 7.1	297 100.0
兵 庫	23 13.3	30 17.3	26 15.0	45 26.0	39 22.5	10 5.8	173 100.0
和歌山	2 5.1	5 12.8	7 17.9	8 20.5	16 41.0	1 2.6	39 100.0
合 計	87 12.6	120 17.4	102 14.8	173 25.1	162 23.5	46 6.7	690 100.0

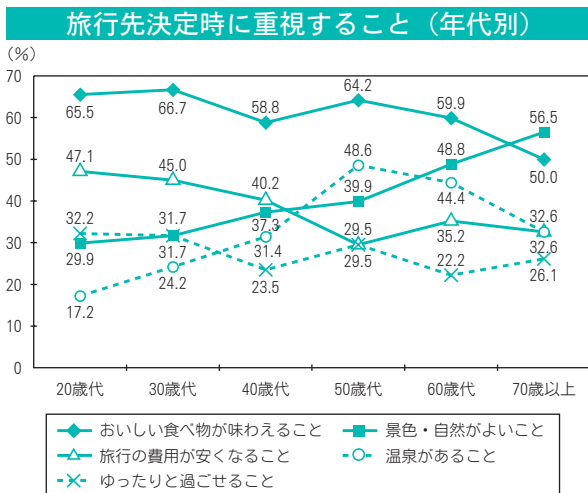
2. 旅行先決定時に重視すること

旅行先を決定するときに重視することを3つまでの複数回答で尋ねたところ、「おいしい食べ物が味わえること」が62.0%と最も多く、以下「景色・自然がよいこと」40.0%、「旅行の費用が安くなること」37.5%、「温泉があること」35.8%、「ゆったりと過ごせること」27.4%などが続いた。

「景色・自然」や「温泉」あるいは「旅行費用」よりも「おいしい食べ物」の有無が、旅行先決定の大きな要因となっていることがうかがえる。



次に、回答数の多かった上位5項目について年代別にみると、「景色・自然がよいこと」は年代が上がるにつれ重視する傾向にあることがわかった。



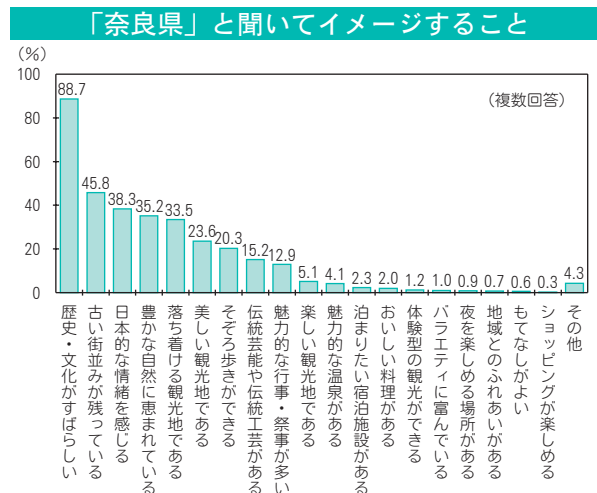
た。一方、「おいしい食べ物が味わえること」「旅行の費用が安くなること」「ゆったりと過ごせること」は中高年に比べ若年者の方がやや重視する傾向がみられる。また、「温泉があること」は「50歳代」「60歳代」で特に重視する傾向が強くなっている。

3. 「奈良県」と聞いてイメージすること

「奈良県」の観光イメージを尋ねた結果では、「歴史・文化が素晴らしい」が88.7%と群を抜いて高かった。その他、「古い街並みが残っている」45.8%、「日本的な情緒を感じる」38.3%、「豊かな自然に恵まれている」35.2%、「落ち着いた観光地である」33.5%などが上位に挙がった。

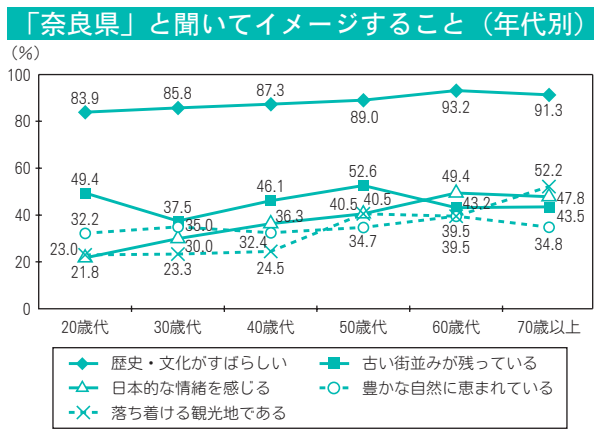
「歴史・文化」をはじめ、これらの上位項目は奈良の代表的なイメージであり、奈良の観光魅力の核になるものといえる。

一方、「奈良県」のイメージとして下位項目となったものを見てみると、「ショッピングが楽しめる」「もてなしがよい」「地域とのふれあいがある」「夜を楽しめる場所がある」「バラエティに富んでいる」「体験型の観光がある」「おいしい料理がある」「泊まりたい宿泊施設がある」などであった。これらの項目は、「奈良県」のイメージとしては弱い項目であるが、言い換えれば観光地「奈良県」として低い評価が下された項目とも言えよう。

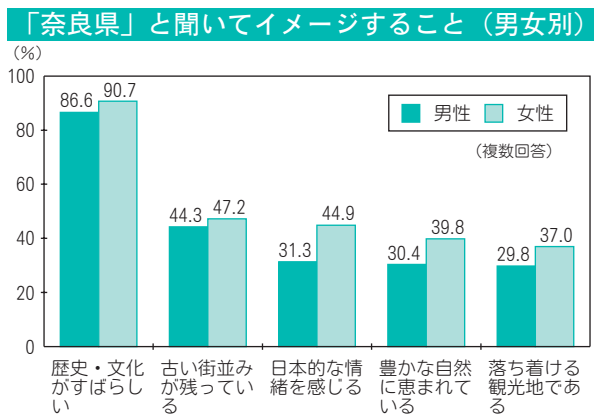


特集

次に、上位5項目について年代別にみると、「歴史・文化が素晴らしい」「日本的な情緒を感じる」「落ち着いた観光地である」の3項目では年代が上がるにつれて強くイメージする傾向がみられた。一方、「古い街並みが残っている」「豊かな自然に恵まれている」の2項目は年代間であまり評価は変わらなかった。



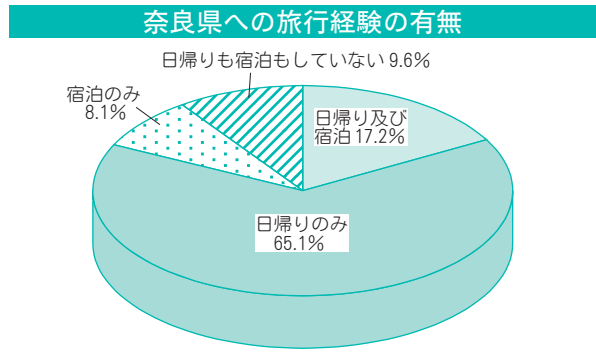
次に、上位5項目について男女別にイメージ度の違いを見てみると、項目間の順位は変わらぬものの男性よりも女性の方が各項目において強くイメージしているという結果となった。特に、「日本的な情緒を感じる」「豊かな自然に恵まれている」では、10ポイント前後の幅で女性が男性を上回っている。



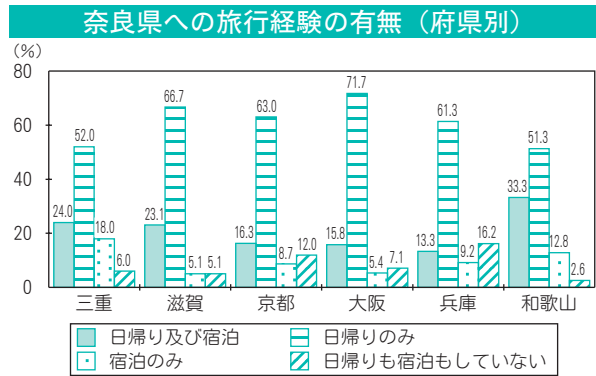
4. 奈良県への旅行経験の有無

奈良県への観光目的の旅行（以下、単に「旅行」

という）に関する経験を、「日帰り」「宿泊」別に尋ねたところ、「日帰りのみ」が65.1%と最も多く、次いで「日帰り及び宿泊」17.2%、「宿泊のみ」8.1%となった。一方、「日帰りも宿泊もしていない」は9.6%であった。



奈良県への旅行の経験を、さらに府県別にみると、項目別で最も多かったのは「日帰り及び宿泊」では「和歌山」33.3%、「日帰りのみ」では「大阪」71.7%、「宿泊のみ」では「三重」18.0%であった。

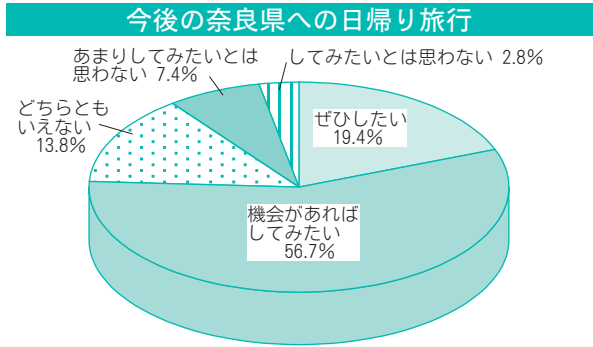


5. 奈良県への日帰り旅行について

(1) 今後の奈良県への日帰り旅行

今後、奈良県へ日帰り旅行をしたいかどうかについては、「ぜひしたい」が19.4%、「機会があればしてみたい」が56.7%となっており、全回答者の約4分の3の回答者が奈良県への日帰り旅行に肯定的な意向を持っているという結果になった。特に、「機会があればしてみたい」と答えた人たちが全回答者の6割近くも存在しており、奈

奈良県への日帰り旅行の潜在的な需要者が多数存在することがわかった。

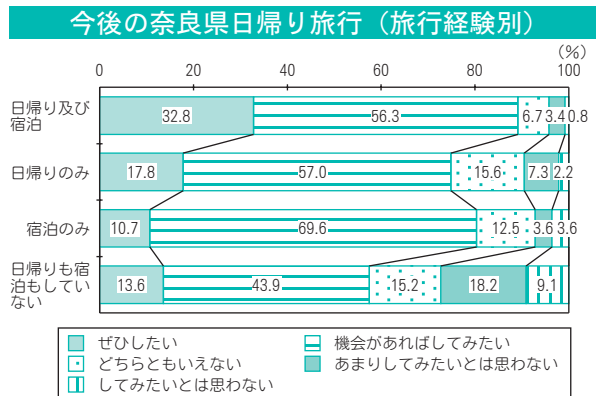
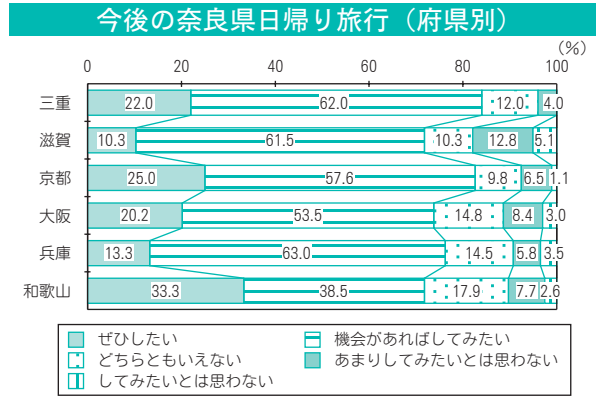


上記の結果をさらに府県別にみると、「ぜひしたい」または「機会があればしてみたい」という肯定的な意向を持つ人の合計割合は、「三重」84.0%、「京都」82.6%が高く、「滋賀」「和歌山」の71.8%、「大阪」73.7%がやや低くなっている。

一方、奈良県への旅行経験別で見ると、日帰り旅行に肯定的な意向（「ぜひしたい」及び「機会があればしてみたい」の合計）を示したのは、「日帰り及び宿泊」89.1%、「宿泊のみ」80.3%、「日帰りのみ」74.8%、「日帰りも宿泊もしていない」57.5%の順となった。

奈良県への旅行経験のある人が奈良県への日帰り旅行を肯定的に捉えるのはもっともなことであるが、これまで「日帰りも宿泊もしていない」人

においても6割近くの人が奈良県への日帰り旅行を肯定的に捉えているのは注目に値する。



(2) 奈良県への日帰り旅行で行きたいところ

それでは、奈良県への日帰り旅行を肯定的に捉えている人たちは、具体的にどこへ行きたいと考

■奈良県への日帰り旅行で行きたいところ（複数回答）

(単位: 件)

奈良市	生駒・信貴・斑鳩方面	桜井・宇陀方面	葛城方面	県外
奈良公園 170	法隆寺 76	室生寺 58	当麻寺 6	浄瑠璃寺 4
東大寺 146	斑鳩の里 8	長谷寺 20	葛城山 1	高野山 3
春日大社 83	生駒山 5	談山神社 8	石光寺 1	龍神温泉 2
薬師寺 22	信貴山 2	山の辺の道 5	合計 8	川湯温泉 1
若草山 21	中宮寺 2	曾爾高原 3	その他県内	岩船寺 1
唐招提寺 13	合計 93	三輪(三輪明神含む) 2	五条市 2	平等院 1
興福寺 12	橿原市	高見山・三畝山 2	大和郡山市 2	笠置 1
奈良国立博物館(正倉院展含む) 12	橿原神宮 3	桜井 1	天理市 1	青蓮寺湖 1
平城宮跡 11	大和三山 1	大宇陀 1	田原本町 1	赤目四十八滝 1
柳生の里 8	橿原 1	奥香落 1	合計 6	湍峡 1
春日山 7	今井町 1	合計 101	特に場所指定のないもの	叡福寺 1
奈良町 7	畷傍 1	吉野方面	特になし 7	広隆寺 1
西大寺 5	合計 7	吉野山 172	鎌倉 1	吉野ヶ里 1
新薬師寺 4	明日香・高取方面	十津川村 20	社寺・古墳めぐり 4	白糸の滝 1
西ノ京 3	明日香 3	大台ヶ原 12	温泉地 2	
月ヶ瀬 3	明日香 78	天川村 8	なんとなく散策 2	
奈良ホテル 2	石舞台 5	熊野古道 3	新能の見学 1	
般若寺 1	飛鳥寺 3	池原ダム 2	季節の華の美しいところ 1	
秋篠寺 1	飛鳥古墳 2	金峯山寺 1	神社、お寺の行事の時 1	
靈山寺 1	岡寺 1	津風呂湖 1	美術館の特別展 1	
赤膚焼き 1	飛鳥資料館 1	川上村 1	遊園地 1	
合計 533	合計 91	合計 221	合計 20	総合計 1,101

特集

えているのだろうか。

奈良県への日帰り旅行を「ぜひしたい」または「機会があればしてみたい」と答えた人（525人）に対して、奈良県への日帰り旅行で行きたいところを尋ねたところ、全体回答数 1,101 件のうち「奈良市」が 48.4% の 533 件と圧倒的な件数を占めた。その他では、「吉野方面」（221 件、20.1%）、「桜井・宇陀方面」（101 件、9.2%）、「明日香・高取方面」（91 件、8.3%）などを挙げる人が多かった。

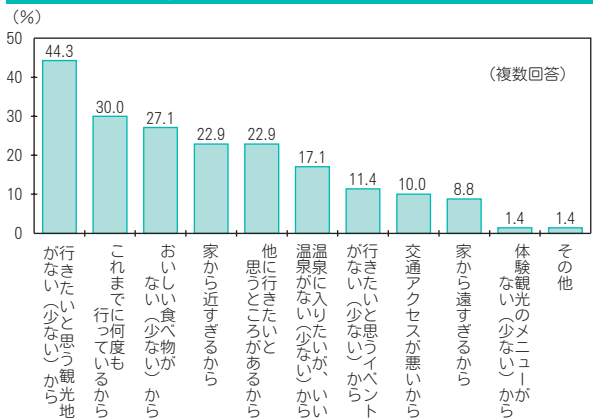
一方、個々の地名や寺社名、施設名では「吉野山」172 件、「奈良公園」170 件、「東大寺」146 件、「春日大社」83 件、「法隆寺」76 件、「室生寺」58 件などが上位に挙がっている。また、京都府の「浄瑠璃寺」や和歌山県の「高野山」「龍神温泉」など県外の観光地を奈良県の観光地としてあげる回答も散見された。

（3）奈良県へ日帰り旅行してみたいと思わない理由

逆に、奈良県への日帰り旅行をしてみたいと思わない人たちは、どうして奈良県を敬遠しているのだろうか。

奈良県への日帰り旅行を「あまりしてみたいとは思わない」あるいは「してみたいとは思わない」と答えた人（70人）にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは、「行きたいと思う観光地がない（少ない）から」44.3%で、以下「これまでに

奈良県へ日帰りで旅行してみたいと思わない理由



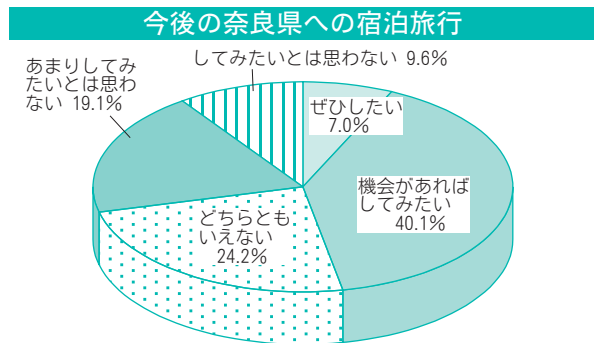
何度も行っているから」30.0%、「おいしい食べ物がない（少ない）から」27.1%、「家から近すぎるから」22.9%、「他に行きたいと思うところがあるから」22.9%などが続いた。

なお、当質問項目（日帰り旅行をしたいと思わない理由）については、回答サンプル数が 70 件と少ないものの、「行きたいと思う観光地がない（少ない）から」と答えた回答者は、男女別で「男性」55.6%が「女性」32.4%を大きく上回り、年代別では「20 歳代」61.5%、「30 歳代」72.7%が「50 歳代」26.7%、「60 歳代」28.6%を大きく上回る傾向がみられた。

6. 奈良県への宿泊旅行について

（1）今後の奈良県への宿泊旅行

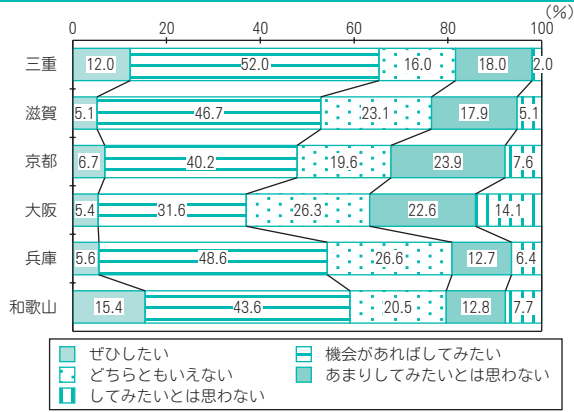
今後奈良県へ宿泊旅行をしたいかどうかについては、全体では「ぜひしたい」が 7.0%、「機会があればしてみたい」が 40.1%となっており、半数に近い回答者が奈良県への宿泊旅行に肯定的な意向を持っている。



これをさらに府県別に見てみると、「ぜひしたい」「機会があればしてみたい」という肯定的な意向を持つ人の割合は、「三重」64.0%、「和歌山」59.0%が高く、「大阪」37.0%、「京都」48.9%が低くなっている。

一方、奈良県への旅行経験別に見てみると、宿泊旅行に肯定的な意向（「ぜひしたい」及び「機会があればしてみたい」）を示したのは、多いものから順に「宿泊のみ」78.6%、「日帰り及び宿

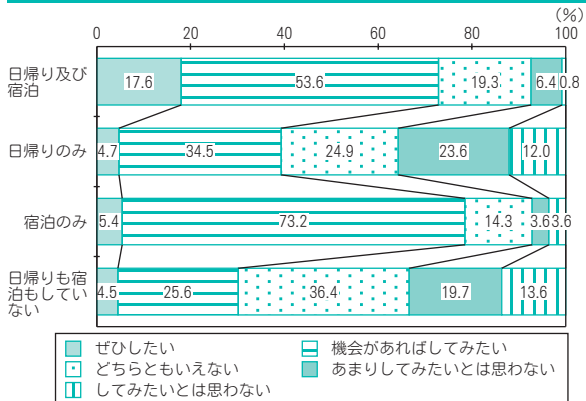
今後の奈良県宿泊旅行（府県別）



泊」71.4%、「日帰りのみ」39.2%、「日帰りも宿泊もしていない」30.3%となっており、これまでに宿泊経験のある人のリピート需要が多い。

一方、宿泊経験のない人においても「日帰りのみ」で4割、「日帰りも宿泊もしていない」で3割の人が奈良県への宿泊旅行を肯定的に捉えており、潜在的需要が見込める環境にあることがうかがえる。

今後の奈良県宿泊旅行（旅行経験別）



（2）奈良県への宿泊旅行で泊ってみたいところ

今後、奈良県への宿泊旅行を「ぜひしたい」あるいは「機会があればしてみたい」と答えた人（325人）に、奈良県内で宿泊したいところを地名（観光地名）で尋ねたところ、多いものから順に「奈良市」171件、「吉野方面」68件、「天川村」64件、「十津川村」59件などとなった。なお、これら4地域で全体の76.3%と約4分の3を占め

ている。

奈良県への宿泊旅行で泊ってみたいところ（複数回答）（単位：件）

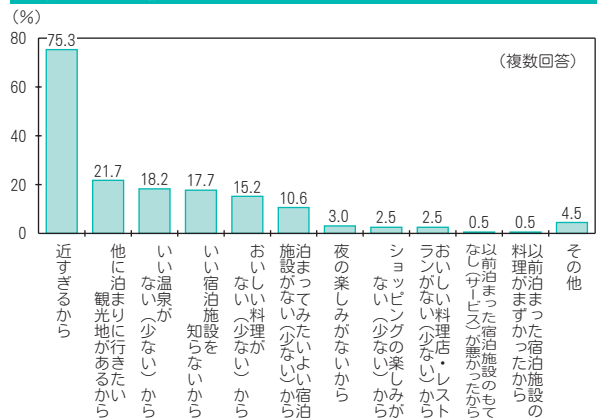
奈良市	171	御所市	1	十津川村	59
うち柳生の里	2			うち十津川温泉	27
うち月ヶ瀬	1	五条市	1	うち十津川村	31
うち奈良ホテル	5			うち谷瀬	1
うち春日ホテル	1	吉野方面	68	その他	6
生駒・信貴・斑鳩方面	20	吉野	34	うち大和路	1
生駒市	6	吉野山	18	うち温泉	3
うち生駒山	1	大台ヶ原	4	うち遊園地	1
うち宝山寺	1	川上村	3	うち山間の保養地	1
生駒郡	1	うち湯盛温泉	1		
斑鳩	13	新吉野温泉	2		
		吉野温泉	1	県外	11
橿原市	23	吉野近辺の温泉	1	龍神温泉	6
		奥吉野温泉	1	川湯温泉	2
明日香村	16	下北山村	2	清水寺	1
		小処温泉	1	赤目四十八滝	1
		北山	1	大杉谷	1
桜井・宇陀方面	13	天川村	64	特になし	21
桜井市	7	うち洞川温泉	54		
宇陀市	3	うち大峰山	2		
うち室生寺	2				
普爾高原	1				
高見山	2				
		総合計	474		

（3）奈良県へ宿泊旅行してみたいと思わない理由

一方、奈良県への日帰り旅行を「あまりしてみたいとは思わない」あるいは「してみたいとは思わない」と答えた人（198人）にその理由を尋ねたところ、「近すぎるから」が75.3%と圧倒的に多く、宿泊旅行に出かけるには自宅からある程度の距離が必要という結果となった。

第2番目以下は「他に泊まりに行きたい観光地があるから」21.7%、「いい温泉がない（少ない）から」18.2%、「いい宿泊施設を知らないから」17.7%、「おいしい料理がない（少ない）から」15.2%などが続いた。

奈良県へ宿泊旅行してみたいと思わない理由



特集

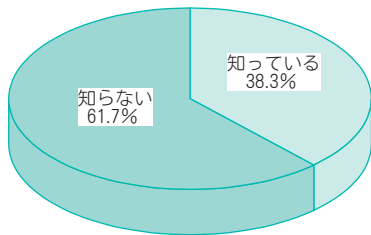
なお、「夜の楽しみがない」「おいしい料理店・レストランがない（少ない）」「ショッピングの楽しみがない（少ない）」など従来から奈良県の課題とされてきたことは、奈良県へ宿泊旅行してみたいと思わない理由にはほとんど影響がなかった。

7. 「平城遷都 1300 年祭」について

(1) 認知度

奈良県では、奈良（平城京）に都が移った年（710年）から数えて1300年にあたるのを記念して2010年に「平城遷都1300年祭」の開催が予定されている。これに関連して「平城遷都1300年祭」を知っているかどうかを尋ねたところ、「知っている」38.3%、「知らない」61.7%となり、近隣の府県では認知度はさほど高くない結果となった。

「平城遷都 1300 年祭」認知度



これをさらに年代別で見ると、最も認知度が高かったのは「70歳以上」の45.7%で、高い年代ほど認知度が高い傾向にあった。また、府県別では、「京都」47.8%が最も高く、「三重」28.0%が最も低く、近隣府県間でも認知度は大きく開いていることがわかった。

■ 「平城遷都 1300 年祭」認知度 (単位: %)

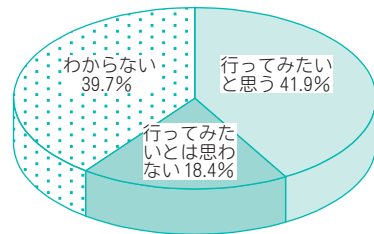
	知っている	知らない	
年代別	20歳代	37.9	62.1
	30歳代	32.5	67.5
	40歳代	34.3	65.7
	50歳代	37.0	63.0
	60歳代	44.4	55.6
	70歳以上	45.7	54.3
府県別	三重	28.0	72.0
	滋賀	43.6	56.4
	京都	47.8	52.2
	大阪	36.0	64.0
	兵庫	37.6	62.4
和歌山	43.6	56.4	

(2) 来場意向

次に、「平城遷都1300年祭」への来場意向について尋ねたところ、「行ってみたいと思う」41.9%、「行ってみたいとは思わない」18.4%、「わからない」39.7%となった。

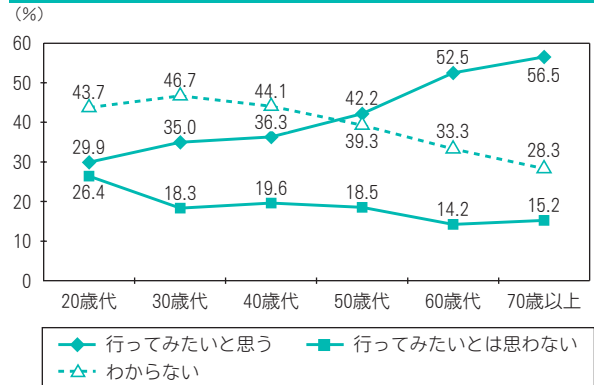
「行ってみたいと思う」が「行ってみたいとは思わない」の2倍超と比較的好意的に受け止められているものの、「わからない」も4割存在している。

「平城遷都 1300 年祭」来場意向



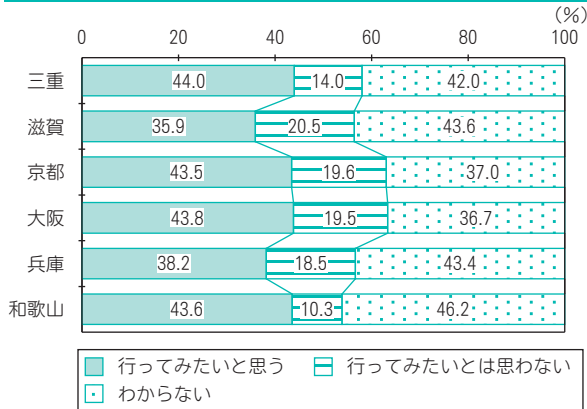
これを年代別に見てみると、「行ってみたいと思う」割合は年代が上がるにつれてが高くなっており、60歳代以上では同年代の半数を上回っている。

「平城遷都 1300 年祭」来場意向 (年代別)



一方、府県別では「行ってみたいと思う」は奈良県と県境が隣接する「三重」「京都」「大阪」「和歌山」で4割を上回っているのに対し、隣接しない「滋賀」「兵庫」では4割を下回っていた。

「平城遷都 1300 年祭」来場意向（府県別）



8. 奈良県の行事・イベントについて

奈良県には、千年以上もの間、連綿と続く伝統的な行事から近年に始まったイベント・お祭りに至るまで、年間に数多くの行事・イベントがあり、また、これらの行事・イベントが奈良県の観光客誘因にもつながっている。

それらの中から、次の4つの行事・イベント（以下、「4行事」という）を例にとり、奈良の観光が日帰り観光圏の住民にどのように受け止められているかについて尋ねてみた。

■本調査で取り上げた4行事

①伝統的行事

- ・東大寺修二会（お水取り）
（以下、「お水取り」という）

- ・春日若宮おん祭り
（以下、「おん祭り」という）

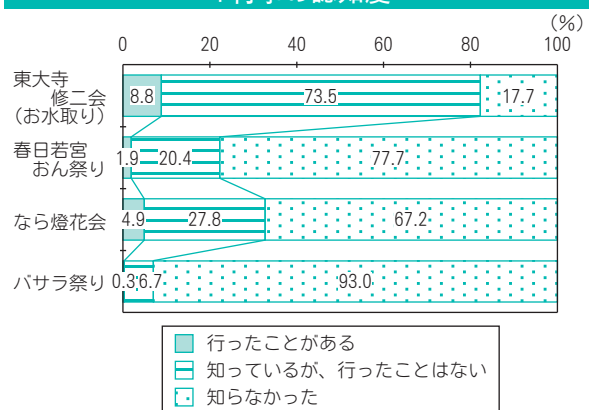
②近年に始まった行事

- ・なら燈花会
- ・バサラ祭り

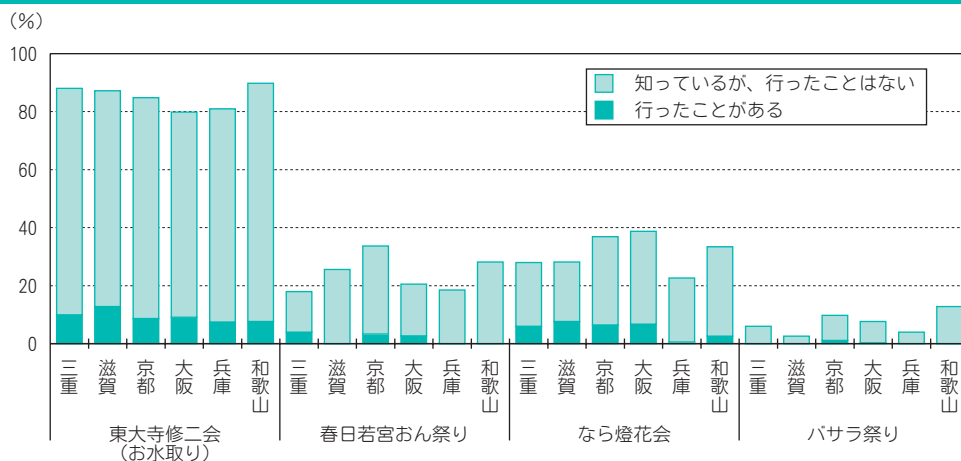
（1）4行事の認知度

4行事の中で最も認知度（「行ったことがある」及び「知っているが行ったことはない」の合計）が高かったのは、「お水取り」82.3%で、奈良の代表的な伝統的行事であることを印象づけている。ただ、そのうちでも「行ったことがある」と答えた人はわずか8.8%と認知度の高さの割には実際に見に来たことのある人は少なかった。次に高かったのは今年10回目を迎える「なら燈花会」32.7

4行事の認知度



4行事の認知度（府県別）



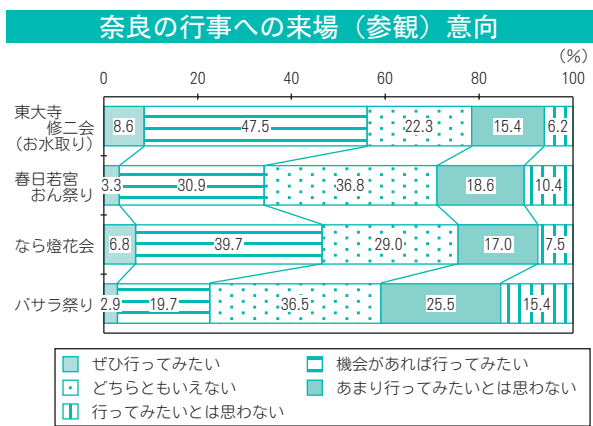
特集

%で、近隣府県での認知度も徐々に上がってきていることがうかがえる。一方、近年、注目度が高まっているといわれる「おん祭り」は、22.3%とそれほど認知度は高くなかった。「なら燈花会」と同じ年（1999年）に始まった「バサラ祭り」は7.0%と4行事の中では最も認知度が低かった。

4行事の府県別の認知度をみると、各行事に共通して「和歌山」が高く「兵庫」が低いという傾向がみられた。また、「なら燈花会」では「大阪」「京都」の認知度、「おん祭り」では「京都」の認知度が高いのが目についた。（グラフはなし）

（2）来場（参観）意向

次に、4行事に行ってみようかどうかを尋ねたところ、「行ってみたい」（「ぜひ行ってみたい」「機会があれば行ってみたい」の合計）と答えたのは、「お水取り」56.1%および「なら燈花会」46.5%が両者とも好評であった。また、「おん祭り」も34.2%と比較的関心度の高さが感じられる結果となったが、「バサラ祭り」は22.6%とやや力不足気味であった。



9. 奈良のうまいものについて

前述の2（旅行先決定時に重視すること）で、「おいしい食べ物が味わえること」が第1位に挙げられたが、旅先での食事の良し悪しは観光客にとって重要な関心事であることは言うまでもない。

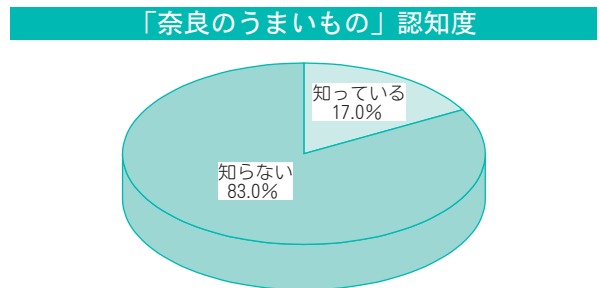
観光客にアピールする料理に乏しいといわれることの多い奈良県においても、県が平成15年度に創作料理として次の7品目を制定しており、現在その宣伝・普及が進められているところである。本調査では、奈良県の観光魅力の一つとして期待される「奈良のうまいもの」についても、その認知度および食事体験の有無について質問を行った。

■「奈良のうまいもの」創作料理7品

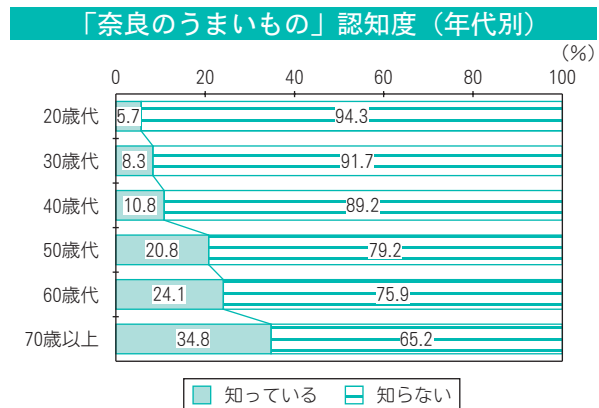
- ・万葉弁当
- ・大和鍋
- ・大和肉鶏照焼井
- ・柿け一き
- ・奈良の鶏茶とりちや
- ・黒米カレー
- ・大和肉鶏のすき焼き風井

（1）認知度

「奈良のうまいもの」については、「知っている」が17.0%に対し、「知らない」が83.0%と、認知度はあまり高いとはいえない。



これを年代別に見てみると、「奈良のうまいもの」は年代が上がるにつれ認知度が高くなっていく。

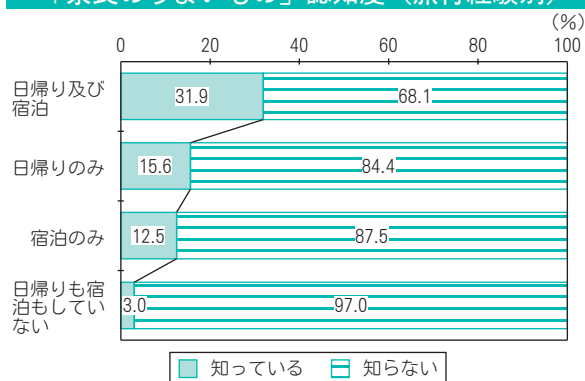


るのがわかる。

一方、府県別では「京都」が22.8%と平均を5ポイント以上も上回っていた。(グラフなし)

また、奈良県への旅行経験別では「知っている」と答えたのは、「日帰り及び宿泊」が31.9%と最も多く、以下「日帰りのみ」15.6%、「宿泊のみ」12.5%、「日帰りも宿泊もしていない」3.0%となっている。「日帰り及び宿泊」の認知度が高いのはともかくとして、「宿泊のみ」の認知度が「日帰りのみ」よりもやや下回っているが、これは宿泊者に対して「奈良のうまいもの」の浸透が進んでいないことを示しているものと思われる。

「奈良のうまいもの」認知度（旅行経験別）

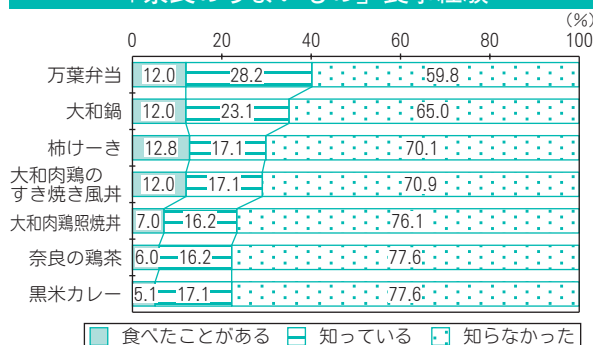


(2) 「奈良のうまいもの」食事経験

「奈良のうまいもの」を「知っている」と回答した117人に対して、「奈良のうまいもの」7品についての食事経験についても尋ねてみた。その結果によると、認知度（「食べたことがある」及び「知っている」の合計）が最も高かったのは、「万葉弁当」の40.2%で、以下「大和鍋」35.1%、「柿け一き」29.9%、「大和肉鶏のすき焼き風井」29.1%などが続いた。

一方、食事経験で最も多かったのは、「柿け一き」の12.8%で、2位には「万葉弁当」「大和鍋」「大和肉鶏のすき焼き風井」（各12.0%）の3品が並んだ。全般的には低調ながらも徐々に認知度が高まってきていることがうかがわせる結果となった。

「奈良のうまいもの」食事経験



10. おわりに

今回の調査では、近隣府県の住民に「奈良県」の観光イメージを尋ねているが、その結果第1位となったのは「歴史・文化が素晴らしい」であった。第2位の「古い街並みが残っている」のほぼ2倍の9割近くの人がこれを選んでおり、まさに奈良県の観光地としての魅力の根源ともいべきものといえる。これまではもちろん、今後も奈良県観光の核にしていくべきものであることは論を待たない。

一方、今後の奈良県への「日帰り旅行」および「宿泊旅行」の意向について尋ねた結果では、肯定的に捉えている人が「日帰り旅行」で4人に3人、「宿泊旅行」で2人に1人となっており、奈良県への潜在的旅行需要は根強いものがあるといえよう。ただ、こうした人たちが実際に奈良県へやって来るかは定かではない。なぜなら、消費者である観光客は気まぐれだからである。どこかに面白いものがあれば、そちらになびくのは世の常。奈良県の魅力である「歴史・文化」は奥の深いものであるが即効的な力には乏しい。彼らを確実に奈良に呼び込むにはそれなりの「仕掛け」が必要である。本調査から言えることはまずは「おいしい食べ物」であろうが、それ以外に、他の地ではできない体験観光や誠意のこもったもてなしなども必要であろう。観光客の心を引きつける「何か(something)」があれば、観光客はやって来る。潜在力は十分にあることを本調査が物語っているのだから。

(井阪英夫)